国立研究開発法人科学技術振興機構
科学コミュニケーションセンター

科学技術コミュニケーション推進事業機関活動支援型
平成 26 年度採択企画
実施報告書

１．企画名

能代山本地域における体験型宇宙科学教室を通した人づくりとまちづくり

２．提案機関名

一般社団法人あきた宇宙コンソーシアム

３．提案企画の概要

本事業では、高等教育機関が存在しない秋田県の能代山本地域（能代市、藤里町、三種町、八峰町）において、子ども達や一般市民が最先端の科学に触れる機会を提供する。同時に、地元行政が掲げる「協働社会」を目指した街づくりの一環として「宇宙のまち能代」のイメージ戦略を一般市民に深く浸透させ、市民が主体となった「まちづくり」に寄与することを目的とする。本事業では、「ホンモノ」を「見る、聴く、触れる」という３つの視点から、体験型・対話型の宇宙教育イベントを能代山本地域で複数回開催し、最先端科学に触れる機会を提供するとともに「宇宙のまちサポーター」を結成し、地域コミュニティの形成を図る。

４．企画の特徴

本企画の特徴は、能代山本地域で現在開催されている宇宙関連イベントに「ホンモノ」の価値を付与することによって，より先端的な体験型，対話型の科学体験イベントへと発展させることにある。ゼロから新しい体験型イベントを実施することは費用、時間、人的リソースが多く必要とされるが、すでに実施されているイベントに付与する形での実施を行うことで、低予算ながらも大きな効果を挙げることができる。また、地域住民によるサポーターズクラブの設置など、地域社会と密接に連携し実施することは、これまで「能代宇宙イベント」や「銀河フェスティバル」などを実施してきた実績のもとで可能となる。従って本事業は、このような地道な活動を継続することよって得られた信頼関係によって成り立っているため、本法人がもっとも円滑に実施することが可能である。さらに、地元サポーターが本事業に参画し、子ども達に展示品の紹介や体験型コンテンツを実施することは、自らが十分に知識や技術を習得している必要があるため、サポーター自身が必然的に学習することで、効果的にそれらの知識・技術を会得することができる。従って、本事業では「まちづくり」を推進しつつ、「人づくり」を行うことが

できうることも特徴的な面である。

５．総合所見

目標の成果が得られ、科学技術コミュニケーションが推進された。

「宇宙開発」と街づくりを結びつける視点はユニークである。また、ボランティアリーダーによる宇宙に関連した活動が市民レベルで実施されるようになり、市民の力を引き出すことに成功した点は評価できる。

今後、「宇宙の街づくり」のビジョンをどのように描き、これまで行ってきた展示・体験イベントや講演会などをどのような具体的な取組に盛り込むのか、今回の取組をこの構想づくりにどう反映し発展させていくのか、を引き続き意識して活動を展開していただきたい。

６．実施者からＰＲ・感想について

本企画では、宇宙に関する事業の「ホンモノ」を「見る，触れる，聴く」と体験を通して経験となすことを目標とし、能代山本地域の子ども達から市民を対象とした活動を展開した。その結果、参加者はペットボトルを用いた水ロケットから火薬を用いた本格的なロケットの製作打ち上げ体験をすることができたほか、実際に宇宙に飛んでいく超小型人工衛星のフライトモデルをまぢかに見ることができた。さらには，能代ロケット実験場場長やホリエモンこと堀江隆文氏が出資する民間ロケット開発を行うインターステラテクノロジズ社の社長より市民向けの講演とディスカッションが行われるなど、まさに「ホンモノ」を広く提供することができた事業となった。今後も継続してこれらの体験を子ども達や市民に対して提供する一方、本地域は宇宙教育に関連した実験に加えて、高度 10㎞に到達するような本格的なロケットの打ち上げ実験が実施できる国内では数少ない場所でもあり、これらの地域の特殊性を生かし、これまでの教育研究に加えて、宇宙に関連した産業が本地域に根付くような働きかけについても推進したいと考えている。

［パネルディスカッションの様子］

［燃焼実験後、来場者へ説明する大学院生］

以上